

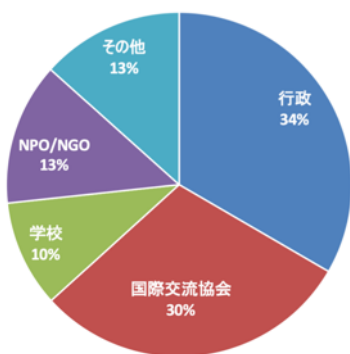
# 研修・コンサルティング事業

各地での多文化共生への基礎理解や、テーマ別に具体的な実践事例の紹介、今後の取組みについて考える場づくり等をサポートする。



## 【主な講演テーマ】

- ・多文化共生とは
- ・やさしい日本語
- ・災害時対応
- ・地域日本語教育
- ・外国人と人権
- ・改正入管法
- ・発達障害支援



## 【実績】

件数 78件(過去最多)  
(内訳)  
行政 46件  
国際交流協会 14件  
学校 1件  
NPO/NGO 7件  
その他 10件

## 【参加者の声】

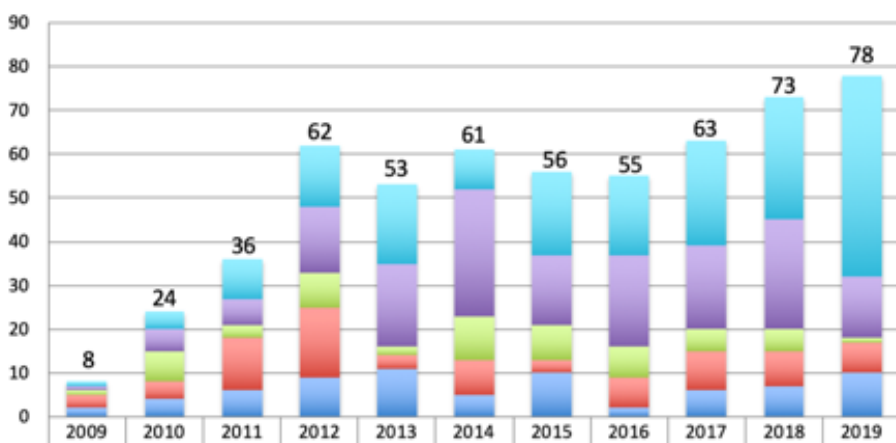
○日本の労働、経済、社会は外国人なしでは成り立たなくなっており、その依存の度合いは地方や中小企業の方が高いことを再認識した。

○今後国籍のあり方を含め検討課題について、深く考えるべきであると感じた。

○今まで日本に住む外国人に対して、サポートしなければならないという意識しか正直なかった。しかし、講義を聞き、お互いサポートしあう多文化共生という考え方を聞き、感銘を受けた。

○今後、増えてくるであろう外国人とお互いに認め合いながら共に地域づくりを目指す必要があると感じた。

○多言語対応など外国人に対する備え、準備がまだまだ足りないことが認識できた。今後、対応を進めていきたい。



	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
行政	1	4	9	14	18	9	19	18	24	28	46
国際交流協会	1	5	6	15	19	29	16	21	19	25	14
学校	1	7	3	8	2	10	8	7	5	5	1
NPO/NGO	3	4	12	16	3	8	3	7	9	8	7
その他	2	4	6	9	11	5	10	2	6	7	10



土井佳彦

今年度は例年に比べて自治体職員研修のご依頼が多くありました。2018年末に、政府が「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」(閣議決定)を発表したことや、2019年4月からの改定入管法施行などが自治体業務に反映されているのだらうと思われま。公的な取り組みが充実することを歓迎する一方で、それが今後の草の根活動にマイナスの影響を及ぼすことのないよう、官民連携の重要性を伝えていきたいと思ひます。

# 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業

岐阜県内において今後の日本語教育事業を推進していくための実態調査等。  
(岐阜県委託事業)

## 第1回 岐阜県日本語教育の総合的な体制づくり推進検討委員会 会場

### 【期間】

2019年7月31日～2020年2月14日

### 【内容】

- ① 検討委員会における検討事項の企画・提案等
- ② 実態調査の企画・調査票の作成及びヒアリング調査の実施
- ③ 実態調査の分析・結果報告書の作成
- ④ 実施計画の提案

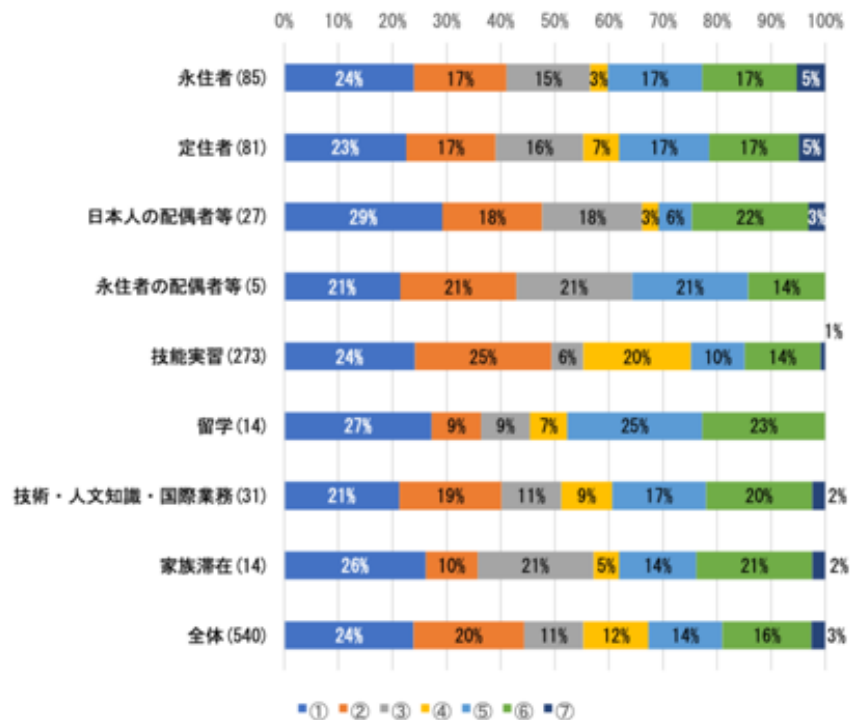


報告書



### 2) 日本語を学ぶ目的

\* 在留資格横の( )内の数値 = 回答者数(無回答を含む)



- ① 生活するために必要だから
- ② 現在の仕事に必要なから
- ③ より条件の良い仕事に就きたいから
- ④ 帰国後日本語を使った仕事をしたいから
- ⑤ 日本人と親しくなりたいから
- ⑥ 日本語や日本の文化が好きだから
- ⑦ その他



土井佳彦

本事業は、文化庁が今年度から開始した「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」プログラムA(実態調査事業)に採択された岐阜県からの受託業務です。県内の全市町村及び国際交流協会、日本語教育を行っている大学や日本語学校、外国人雇用企業、地域日本語教室、そして日本語教室に通っている外国人とそうでない人を対象にアンケートと対面式でのヒアリングを行いました。この結果をもとにした、次年度以降の施策展開が期待されます。

# GIC地域日本語教育 アドバイザー派遣事業

岐阜県内の地域日本語教室の運営課題の改善  
及び在宅での日本語学習の仕組みづくりに取り組む。  
(岐阜県国際交流センター委託事業)



## 【概要】

### ①地域日本語教育アドバイザーの確保・派遣

派遣者数 15名  
派遣先団体 8団体  
派遣時間 計72時間

### ②アドバイザースキルアップ研修会

### ③成果報告会(参加者66名)

### ④アドバイザーリスト作成



## ○よかった点

- ・活動上の問題点を出してもらい、その解決に向けてボランティア間で意見交換ができたり、アドバイザーからも助言を得られたりしたのがよかった。
- ・他の日本語教室の運営方法や状況を教示いただき、今後の教室運営を検討するあたり、参考にさせてもらえた。また、教材について見本を持参して提案していただけたので、支援者間で意見の共有ができた。

## ○改善点

- ・内容はボランティアに響いていたと思うが、ポイントを絞って伝える方がよいのではないかと感じた。資料が細かくてわかりにくかった。

昨年度から岐阜県で実施している「地域日本語教育アドバイザー派遣事業」は、継続5団体、新規3団体の計8団体にアドバイスを行いました。教室の取り組みはそれぞれですが、共通した悩み事も多く、今後は地域を越えて複数の団体を対象とした合同研修会のような場づくりも重要だと感じました。また、文化庁国語課から講師をお招きした事業報告会には、例年の倍以上のご参加があり、今後の地域日本語教育への関心の高さが伺えました。



土井佳彦

# 地域国際化 ステップアップセミナー

地域の国際化をテーマに、官民の連携促進を促すセミナーの企画・運営。  
(自治体国際化協会・市民国際プラザ委託事業)

## 多様なセクターとの連携・協働

～外国にルーツのある人々の乳幼児期から老年期まで、  
ライフサイクルに応じた「支援のつながり」を構築、強化するために～



資料・報告書



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナリシップで目標を達成しよう



【日時】  
2020年1月23日(木)  
13:30～17:30

【場所】  
名古屋国際センター  
別棟ホール

【参加】  
90名(うち主催者等10名)



- ①愛知県における多文化共生の取り組みー乳幼児期と老年期を中心に各務浩元氏(愛知県)
- ②多言語・多文化保育の実戦から加藤順彦氏(多文化リソースセンターやまなし)
- ③多言語・多文化介護の実戦からフッデルゲル氏(神戸定住外国人支援センター)

### 登壇者プロフィール

愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課 多文化共生推進室 室長補佐  
**各務元浩(かがもとひろ)氏**

1970年愛知県生まれ。1993年3月愛知教育大学総合科学課程卒業。同年4月愛知県庁入庁。2011年に地域政策課を主として「あいちの未来80日懸念チャレンジ」など推進業務を担当。2013年愛知県立大学法人経営計画課副課長に就任。2016年男女共同参画推進課課長補佐を経て、2018年より現職。



一般社団法人多文化リソースセンターやまなし 代表理事  
**加藤順彦(かとうよりひこ)氏**

海外駐在員として30年間アジアという多民族・多言語・多文化の多様性の世界で暮らした。2006年に帰国後、山梨県でポルトガル語・スペイン語のボランティア講師・翻訳を行う中、ラテン系外国人から生活相談を受けるようになり、市民団体、一般社団法人を設立し日本の法制度を生かした外国人サポートを行っている。子育て支援のため二つの小規模保育園を運営している。



特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター(KFC)ゼネラルマネージャー  
**呼和徳力根(よみでるける)氏**

1981年中国・内モンゴル自治区バヤン生まれ。2005年来日。2010年神戸市外国語大学大学院修士課程を修了後、神戸定住外国人支援センターの活動に加わる。ヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員の資格を持つ。在日韓国人、ベトナム人、中国人および中国残留邦人帰国者等の高齢者支援に取り組む。



特定非営利活動法人 多文化共生リソースセンター東海 代表理事  
**土井佳彦(どいよしひこ)氏**

1979年広島生まれ。大学で日本語教育を学び、卒業後、留学生や帰国研修生を対象とした日本語教育に従事。2008年、多文化共生リソースセンター東海の立ち上げに参加し、翌年の法人格取得とともに代表理事に就任。【一財】自治体国際化協会「地域国際化推進アドバイザー」、「あいち多文化共生推進会議」委員。



土井佳彦

2012年度に岐阜市で開催して以来、7年ぶりに本セミナーを企画・実施させていただきました。2018年度に愛知県がまとめられた「あいち多文化共生推進プラン2022」では、“ゆりかごから墓場まで” つながりのある取り組みを「ライフサイクル」として示し、新たに乳幼児期と老年期に生じる課題への対応策を模索し始めました。これに対し、すでに先進的な事業を展開されている団体からそのノウハウを共有していただき、今後の愛知の多文化共生の展開に期待が膨らみました。

# 情報発信

多文化共生に関する情報を不特定多数の人に発信し、日常における多文化共生の認知度・理解度を高める。



特定非営利活動法人 **多文化共生リソースセンター東海**

国籍や文化に関係なく、みんなが安心して楽しく暮らせる社会にしたい

- ホーム
- 団体概要
- About us
- 活動実績
- 成果物等
- 講師派遣
- 会報誌
- メディア掲載
- サポーター募集
- お問合せ



あけましておめでとうございます！

♡2

NPO法人多文化共生リソースセンター東海  
2019/12/31 11:53

あっという間にオリンピックイヤーになりましたね。  
みなさんの今年のご予定はいかがでしょう。

当団体はこれといって大きな変化はない・・・と思いますが、一昨年から  
の国策による“外国人材”受入れとその対応策がめまぐるしく展開されて  
いるから、いろいろな情報等に振り回されることなく、一つひとつの活動を  
丁寧に取り組んでいきたいと思ひます。

ご紹介:新型コロナウイルス感染症に関する多言語情報まとめ(NPOタブマネ)

😊 NPO法人多文化共生リソースセンター東海  
2020/04/15 16:15

当団体も日頃からお世話になってるNPO法人多文化共生マネージャー  
全国協議会(通称、NPOタブマネ)さんが、新型コロナウイルス感染症  
に関して多言語で出されている情報や、各種支援情報などをまとめ  
られています。ぜひ、ご参考ください。

新型コロナウイルス多言語情報参考まとめ | NPOタブマネ | note  
新型コロナウイルスに関する情報について  
note.com



情報は随時更新されていっしょういいますので、マガジンをフォローし  
たり、ときどきアクセスしてみることをオススメします。

1日も早い終息を願っています。

【ホームページ】  
・ページビュー 11,829

【facebookページ】  
・投稿数 4,596件  
・いいね! 2,900件  
(前年度+473)

【ブログ(旧)】  
・投稿数 16件  
・訪問者数 474人  
・ページビュー 1,851

【ブログ(新)】  
・投稿数 4件  
・ページビュー 224



土井佳彦

今年度も情報発信はfacebookが中心となり、その他の媒体での発信が不十分だったことを反省しています。特に、各事業の進捗状況やイベントの案内・報告はほとんどできていませんでした。一方、従来のCANPANブログを新たなツールとして最近人気を集めている「note」に移行し、情報の拡散力UPにチャレンジしています。次年度は団体活動への理解を広めることにも務めていきたいと思ひます。

# 「外国人の子ども」×「発達障がい」 支援のためのライフコースマップ

外国にルーツがあり発達障がいである子どもたちがライフステージごとに培うと良い能力や支援制度をまとめたライフコースマップを製作する



**【概要】**  
支援者や親御さん向けの学習会や専門家による会議を通して支援に役立つライフコースマップを製作する。 ※ドコモ市民活動団体支援事業による助成事業



**【開催日時・参加者】**  
＜学習会＞  
①2019年3月19日(火)  
ゲスト: 後藤 千絵氏  
参加者: 4名  
②2019年5月19日(土)  
ゲスト: 松永 結実氏、他  
参加者: 10名  
③2019年6月30日(日)  
ゲスト: 後藤 千絵氏  
参加者: 15名  
＜専門家会議及び打ち合わせ＞  
2020年1月～4月  
専門家: 6名 事務局: 2名  
回数: 計10回



**【学習会参加者の声】**  
・当事者である方のお話を伺えて、大変勉強になりました。外国人の主に大人の方は、親元を離れ、一番の支援者がいない状態で来日される方が多いので、私たちが支援や理解をしていきたいと思えます。  
・お話をお聞きして、自分や周囲の方々と重ね合わせました。2つの見方、ロールモデル、多様性、過干渉、過保護、外国人、留学生などキーワードを思い出してこれからは活かすことができたらと思います。



2014年から取り組んでいる「外国人の子ども」と「発達障がい」事業、7年目の今年は就労までを視野に入れて親御さんや支援者に役立つライフコースマップづくりに取り組みました。子ども支援にとどまらず、日頃就労支援に携わる方にご参画いただき、現状の共有や今後に向けた支援体制づくりに一歩前進できたことを大変嬉しく思うとともに、社会での認知を高め、支援環境の充実に努めていくことにますます尽力していかなければと思いを新たにしました。

河村 慎子

# 「外国人の子ども」×「発達障がい」 通訳・翻訳に役立つ資料集作成事業

各言語の通訳者が集い、発達障がいや専門用語への知識を深めながら用語集を作成する



## 【概要】

学校現場で発達障がいに関わる通訳・翻訳を行う際のスキルを高める研修会を実施。研修会では前半の講義で発達障がいの基礎を学んで専門用語への知識を深めて、後半のグループワークでディスカッションを行いながら、実際に翻訳する作業を行った。

※東海地域NGO活動助成金事業

## 【開催日時・参加者】

〈第一回〉

2019年12月15日(日) 10:00～15:00

講義：発達障がいとは？

グループワーク：

通訳・翻訳場面での困りごとを知る

参加者：7名（ポルトガル語、中国語、韓国語、スペイン語、英語）

〈第二回〉2020年1月19日(日) 10:00～15:00

講義：福祉サービス、特別支援とは？

グループワーク：

保護者の出身国との違いを考える

参加者：13名（ポルトガル語、中国語、韓国語、スペイン語、英語）

〈第三回〉

2020年2月16日(日) 10:00～15:00

講義：発達検査とは？

グループワーク：

通訳練習「学校場面の困り感を伝える」

参加者：10名（中国語、英語、韓国語、タガログ語）

※全3回とも講師は岡谷絵美氏



## 【参加者の声】

- ・発達障がいに関する知識以外にどのようなスタンスで子ども・保護者・学校に関わったらいいのかも教えていただき、目の覚める思いでした。
- ・実際の現場に活かしていけそうです。



河村 慎子

2018年に国立障害者リハビリテーションセンターにおいて、「外国にルーツをもつ障害児および家族への支援状況等について」の調査が行われ、2019年に発達障がいに関する保護者向けの多言語版パンフレットが作成されるなど、外国にルーツのある子どもの発達障がいについて、省庁における認知が進み始めました。現場の困りごと、ニーズを把握しながら、支援体制の充実に向けた当団体としての役割を果たしていきたいと思っております。